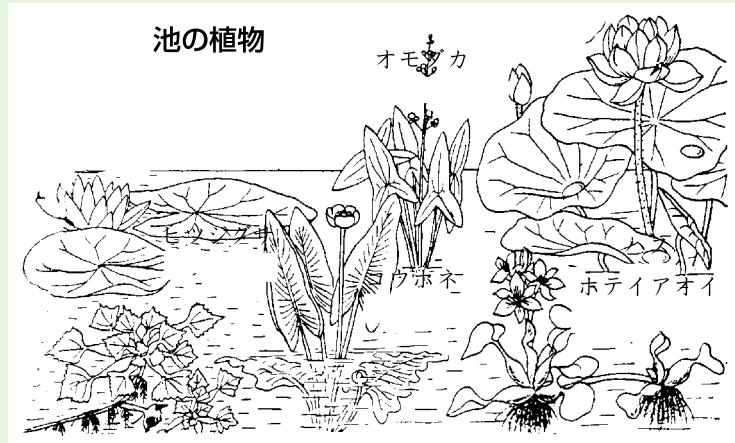




水の中を^{さぐ}探る

(その1) 池の植物

ため池など、水の中には色々な水生植物が生息しています。ここでは、よく見かけられる植物を紹介^{しょうかい}しましょう。



■**ヒツジグサ** ^{べつ めい} 別名スイレンの方がよく知られて

います。葉の柄の中には、^{たて} 空気の通路が縦にならんでいて、葉を水中につけて柄の切り口を強く吹けば葉の表面から泡が出ます。

■**ハス** 花の咲いたあとの実の入っているさやの形が蜂の巣^{はちす}に似ているので、ハチスと呼んでいたのがハスになりました。地下茎は、^{ちか} レンコン^{けい}とって食用にします。実も食べられます。

■**オモダカ** クワイに似ていますが、イモが小さくて食用にはなりません。水中にある葉の柄は太く、水中で押さえると空気の泡が出ることから、水中で浮くのに役立っていることがわかります。

■**ヒシ** ヒシの葉は、^{ほうしゃじょう} 放射状に水面に浮かんでいます。よく見ると、外側の葉の柄は長く内側のものは短くて、これが葉を水面に広げるのに役立っています。また、葉の柄の一部は浮き袋^{ぶくろ}になっていて、空気をため込んでいます。

■**コウホネ** 水中にある葉はペラペラとした^{うす} 薄いもので、水の上に出ている葉はサトイモのような葉になっています。コウホネは「川骨^{かわほね}」で、地下茎が骨のように見えるので名付けられました。

■**ホテイアオイ** ウォーターヒヤシンスとも呼ばれ、夏に^{うすむらさきいろ} 薄紫色の美しい花をつけます。南米^{げんさん} 原産の植物で、水に浮いているものは葉の柄が太くふくくて空気を入れた浮き袋となり、^{しつち} 湿地で水のにじむような場所のものは浮き袋があまり発達しません。